

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271000216		
法人名	(株)ケアサービス・まきの実		
事業所名	グループホーム堂の下ガーデン		
所在地	千葉県館山市船形827-11		
自己評価作成日	2019年 12月 5日	評価結果市町村受理日	2020年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOBA
所在地	我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	2019年 12月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

管理者、CMを中心に介護経験が長く有資格者の職員が揃ってきた。介護福祉士が6名、喀痰吸引資格者が4名、来年1月度からの短期利用認知症対応型共同生活介護の準備を進めている。介護経験と資格取得の知識と技術を入居者様のQOLの向上に繋がるように取り組んでいる。共同生活の中で問題は都度発生します。個々が状態をさまざまな視点からアセスメントし考え根拠に基づいて迅速に行動できるようにし、チームとして情報を共有しながら、より良いケアが出来るように取り組んでいます。また毎月のご家族様へのお手紙や広報誌の郵送を行っています。面会時には、ホームでの最近の様子を伝えご家族さまの要望を伺い信頼関係を得るように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成13年に市内で初めて設立されたグループホームで、隣接して住宅型有料ホームがある。管理者は高齢化、重度化の利用者の増加に対して、全職員の力を結集しチーム力(総合力)による支援を目指している。家族の理解を高めるためには日常の暮らしぶりを定期的に報告する事が大切と考え、スマイルガーデン・くらしのお知らせなどで報告し、好評である。台風15号では、ホーム裏山が崖崩れの恐れがあり、一時は避難も想定したが、幸い大事には到らなかった。しかし停電は6日間も続き暑さ対策・熱中症書防止に苦勞したが、職員がワンチームとなった支援で乗り切った。当ホームの勤務が長いケアマネージャーをはじめ、経験豊富な職員も多く、管理者の人柄も反映してホームは穏やかな雰囲気です利用者は思い思いに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します (○ 印を記入ください)

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その方らしく生活が出来るグループホーム」を基本理念とし、各職員へ意識付けを行い、介護計画にも記載している。	法人目標、信条、経営理念を基に、ホームの基本理念「その人らしく生活できるグループホーム」を作成した。全職員の話し合いでコラボレーション・5項目の取り組み課題(安全・サービス・生産性・イメージ・プライド)を決め、利用者のQOL向上に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	消防指導元の防災訓練や地域幼稚園学習発表会、中学校職場体験受け入れ、近隣スーパーに買い物など行っている。	町内会に加入し、住民とは散歩時に挨拶、離設の時に連絡頂いたり、畑の農作物を頂くこともある。台風停電時に住民の携帯の充電、台風情報を教えるなどで協力した。中学生の職場訪問体験はインフルエンザ防止のため断ったが、幼稚園発表会に招待されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防指導元の防災訓練や幼稚園との交流、中学校の職場体験を通し理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、区長、民生員、ご家族様へ報告する事により、意見を頂きサービス向上に努めている。	市高齢者福祉課、地域包括支援センター、民生委員、区長、家族代表の参加で年6回開催。行事、利用者状況、介護度変化、ヒヤリ・アクシデント・台風被害・身体拘束適正化委員会等を報告する。高齢者虐待等の外部情報も説明し、理解を深めて頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や認定調査時、又、市主催の入居者様作品展へ参加を行いコミュニケーションを図り協力関係構築に努めている。	運営推進会議へ毎回市高齢者支援課が出席、認定調査時にも来所するので、状況説明している。今回の台風時の崖崩れ対策では密接に連携を取った。来年度は、短期利用認知症対応型の事業所となり、緊急時の協力体制を目指している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束研修への参加。施設内提示物で情報共有、運営推進会議時に身体拘束の議題を上げて施設内報告を行い理解を深めている。日中の玄関の施錠は行っていない。	全員がDVD研修を年2回受講、実施後研修会報告書を提出する。管理者は県の外部研修を受講して、ホームで伝達研修を実施するなどして、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。身体拘束の該当事例はないが、運営推進会議開催時に取組状況を報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加や時事を通し学び、職員へ情報共有を行いながら、都度確認し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各自資格取得時に学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書をもとに説明をし、質疑応答を行い理解納得をして頂き、入居後もサポートをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様に対し日々ケアや会話の中で意見や要望を察し、ご家族様に対して面会時に意見を伺い反映させ、運営推進会議や行事の様子を事業所広報誌やホームページへ掲載し内容が伝わる様努めている。	利用者の写真満載の広報誌・堂の下スマイルガーデン、利用者毎の健康状況・日常生活を記したくらしのお知らせを送付し、暮らしぶりを知らせ、好評である。来所時には職員は必ず家族と話し合い確認している。訪問頻度の少ない家族や緊急時には電話確認する。メールで連絡しあう家族も居る。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務時や考課面談時に聞く機会を設けている。法人内ネットワークや月1度の管理者会議にて反映される様努めている。	年2回の人事考課面談、PC活用のネットワーク意見交換、少人数での短時間ミーティング等を通じて積極的に職員の意見を汲み取り、運営面に反映させている。管理者は5つのコラボレーションを制定し、チームワーク(信頼関係)に基づく協同支援を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自目標を立てて働いている。日々の会話の中や考課面談時に、一人ひとりの思いを確認し働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や勉強会へ自主参加を促したり、外部研修へ参加をさせ、職場で生かせる様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1度の管理者会議や外部研修参加を行い意見交換し、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望や不安ごとなど時間を掛け傾聴し安心した生活が送れる様、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階でご家族様の意見、要望を傾聴し信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様より直接意見を頂いたり、普段の会話の中で何を求めているか見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活であると共に入居者様、職員と共に支え合い生活していく場である事を周知し、出来る事を一緒に行い関係性を築く様、努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間制限をせず、いつでも会える環境作りを行っている。又、ご家族様へ定期的に連絡を行い、ご家族様にしかできない事をお願いし共に支え合っていく環境作りに努めてる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限をせず、馴染みの関係を大切にしている。又、外出や散歩など行き住み慣れた場所と関係性が途切れない無い様努めている。	重度化により馴染みの関係を保つことが困難になっている方が多い為、面会希望時はご本人の状態を丁寧に説明し、理解していただいた上で面会を取り次いでいる。馴染みの人、馴染みの場所が変化しており、ボランティアの方や、訪問美容師などに代わってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、認知症状の把握をし、落ち着いて過ごせる環境作りや、集団生活で発生する感情なども留意し、個々に合わせた対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中からその方の思いを考え、生活歴、生活習慣から検討し意向に添える様努めている。	気持ちを十分に伝えられない方が多いため、生活歴を把握し、職員で情報共有し、表情の変化に注意してその時々意向を把握している。日々の何気ない会話にも留意し、個々の思いや意見を把握することで、意向に沿った生活を送れるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中や生活歴ご家族様からの情報、入居前にケアマネージャがいた際は、情報収集を行い経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で、一人ひとりの変化や行っている事をケア記録に残し、変化があった際は申し送り等で把握する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングや課題が見れた際、ミーティングなどで今後について意見交換をし介護計画作成に努めている。	日々接するスタッフの気づきは介護支援ソフトの記録に集約されている。全職員で確認し支援するとともに、担当職員とケアマネジャーが継続的に振り返りを行っている。主治医や家族からの意見も随時聞き取りが行われ、介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケアの様子を記録に残し、職員間で情報共有を行い実践し介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活歴や普段の生活状況を把握し、情報共有を行い多機能的な支援を行なえる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域園児とのふれあいや買い物、散歩に出かけた際、地域との交流を行い楽しい暮らしができる様支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診察にて状態報告し、その旨をご家族様に伝えている。又、主治医以外のかかりつけ医師との連携を図っている。	利用者全員が系列医療法人の主治医(法人理事長)による訪問診療を受けている。専門的な治療が必要な時は、主治医の判断で専門の病院を受診する。必要時は有料で職員が付添い、受診先の家族の介護負担を軽減し、医師とのやりとりも支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間365日の連絡体制ができています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院である為、情報共有を随時行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方向性を確認し、必要時、事業所で行える事を再度説明し意向を確認している。関係者との情報共有を行いチームで支援できる様努めている。	入居時に終末期に事業所ですることを説明し、重度化になった場合には主治医との話し合いをして意向を確認しているが、この1年では看取りの方はなかった。重度化の方も増えているので、喀痰吸引は職員4名が研修を修了し、夜間帯も対応可能である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置のマニュアル確認とヒヤリハットが上がった際、考えられる危険や事故をシミュレーションし実践に備えられるよう努めている。喀痰吸引資格取得者4名在籍。緊急時の対応を学んでいる。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内避難訓練を消防と協力して行っている。台風災害時には、近隣住民や館山市とも連携を取って対応した。	年2回消防署と連携し避難訓練を実施している。台風被災時は停電、断水による熱中症の発症が心配されたが、法人内の連携で氷を調達して体を冷やすなどの対応で無事乗り越えた。がけ崩れで一時避難の恐れもあったが、市や近隣住民とも連携し、避難を免れた。	今回の台風被害は、ホーム別にかかりの程度の差があった。法人として、今回の貴重な経験と対応策を共有して、今後の災害に備えてほしい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様、職員共に相手を敬う心を意識し関わりを大切にしている。	利用者が自信を失うような内容の会話をせず、自尊心を保てるような質問や声かけを行っている。できる作業、できない作業を見極め、日常生活における役割を通して生きがいを作れるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の日々の会話の中や表情、様子から思いをくみ取り、自身で決定できる様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態や様子によってその方の希望や、その方のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の趣味やお気に入りなど考慮し、一緒に行える方は外出時や入浴時の着替えを一緒に選び自己決定の場も設けている。訪問美容の際は、本人の意向を伺っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を利用し、目でも楽しめる様工夫をしている。又、一人ひとりの行える家事を一緒に行い、食事が一層楽しい物になる様支援している。	近隣住民や家族からの差し入れがあり、旬の野菜を使い、季節を感じられる献立を提供する。食べたいものを伝えられる方が減っているが、献立は当日の希望を考慮して決めている。家族には献立表を郵送し、食事内容を報告している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握をし、摂取量減少が見られた際、咀嚼状態や食事形態を見直し、好みの物や食べやすい物を考え提供している。必要に応じて理学療法士の指導を頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指示を受け口腔ケアを行い必要に応じて訪問歯科を依頼し口腔内清潔保持を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけ排泄が行える様支援に努めている。	職員は日々の排泄の状況や状態を細かく入力・記録し、排泄パターンを把握している。早めの声掛け、トイレ誘導など、排泄の失敗を減らし、おむつの使用量が減った事例も見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、水分強化、適度な運動、ホットタオルで腹部を温める、腹部マッサージ、又はストレスの有無の確認を行い対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は設けているが、ご本人の希望により入浴が出来るよう対応している。	基本的に午前中の中の入浴としているが、希望により他の時間帯でも対応している。入浴中にゆっくりと話を聞く時間を作る、水の苦手な方はリラックスできるように一緒に歌う等、個々の状態や性格に合わせた対応を行い、入浴時間を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態に合わせていつでも休息できる様支援している。又、夜間に関しても入居様の睡眠時間に合わせ対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時都度、処方説明書にて用法、用量、副作用の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味趣向の把握を行い、個々に合った対応を行っている。又、外出し気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様からドライブの依頼や場所への希望があった際は支援を行なえる様努めている。又、地域の方々の協力を得て外食や買い物を行っている。	重度化が進み外出できる機会が減っているが、可能な方は散歩をしたり、車の中から馴染みの町を見てもらおう等の外出支援を実施。外出困難な方は外気浴を定期的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設管理となっているが、買い物の際は社会性維持の為、支払い等を行う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて対応してる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の立場に立ち、使いやすさ心地よさを考え随時対応している。又、季節感を味わえる様、季節によって装飾品を変えている。	居間とキッチンが繋がり、調理員との交流が活発に行われ、利用者が食器洗い等を進んで行う姿も見られている。居間では観葉植物等の配置により利用者同士の視線を逸らす等、共有空間においてもプライベートスペースを確保し、穏やかな空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が自由に安心して生活できる様環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や装飾品など持参して頂き、安心して生活できる様努めている。	入所時の混乱を軽減できるよう使い慣れた家具等を持ち込むことの大切さを家族に説明し、室内の家具の配置も自宅を参考にして、本人、家族と相談して決めている。掃除ができる方は、職員と一緒にいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の表示や見守りを中心とした声掛けにより自立した生活支援を心掛けている。		